J. Jpn. Bot. **86**: 113–114 (2011)

夜間における蛾の訪花活動（**2**）アケビコノハの盗蜜（池ノ上利幸[a]，金井弘夫[b]）

Toshiyuki IKENOUE[a] and Hiroo KANAI[b]: Nocturnal Moth Fauna on Flowers (2) Nectar Robbing by *Eudocima tyrannus* (Guenée)

[a]234-[redacted] 神奈川県横浜市[redacted][redacted]
[a][redacted] [redacted] Yokohama, 234-[redacted] JAPAN
[b]184-[redacted] 東京都小金井市[redacted][redacted]
[b][redacted] [redacted] Koganei, Tokyo, 184-[redacted] JAPAN

Summary: *Eudocima tyrannus,* a fruit noxious moth, is known to suck fruit juice by piercing the pericarp with its strong proboscis nearly 17 mm long. Forty individuals were recorded as nocturnal flower visitor during 18 years observation in which 33 were found on *Camellia japonica* flowers. Their usual visits were from the front of flower acting as pollen carrier. Four individuals were found visiting the rear of the flower robbing nectar through hard and thick perianths.

わが国に生息する蛾の一種であるアケビコノハ *Eudocima tyrannus* (Guenée) による，ヤブツバキ *Camellia japonica* 及びその園芸品種（これらを合わせて以下，ツバキと記す）の花からの盗蜜を確認したので報告する．

アケビコノハはヤガ科 *Noctuidae* に属する大型の蛾で，成虫の開張（開いた前翅の，翅の先から翅の先までの長さ）は 100 mm に達する．本種の口吻の先端部は硬く鋭く，ブドウや柑橘類を始めとする各種の健全な果実に夜間飛来し，口吻を突き刺して吸汁する加害種として知られている（森ほか 1989）．口吻の全長は約 17 mm である．

本種は国内では北海道から沖縄まで分布している．四国や九州では 1 年に 3 世代を営み（森ほか 1989），本州南部の暖地では 5 月頃より第 1 化の個体が現れる．主たる越冬態は成虫とされ（井上ほか 1982），冬を越した個体は晩春まで生き残っているので，暖地ではほぼ周年にわたり成虫の姿を見ることができる．

アケビコノハの成虫は果実のほか，ネジキ，リョウブ，ツバキ，フジ，クリの花にも飛来する．池ノ上は 1992 年 5 月から 2010 年 8 月までの間に，山口県及び神奈川県において，のべ 40 個体のアケビコノハの訪花を確認しているが，その内の 33 個体はツバキの花より観察されたものである．本種のツバキへの訪花は，1 月から 4 月にかけての各月で見られる．Figs. 1A–1C に例示するように，訪花は吸蜜を目的としている．

アケビコノハがツバキの花より吸蜜する際には，通常 Fig. 1A に見られるように花の表側に静止して，蜜が付着する花糸の基部に向けて口吻（矢印で示した部分）を伸ばす．この際，花糸の先端にある花粉が体の各部に付着するものと考えられる．しかしながら，Figs. 1B, 1C に見られるように花の裏側に静止して，萼や花弁を鋭い口吻で突き通して盗蜜する個体も 4 例確認している．

ツバキの花の蜜は，多数の雄しべが束になって形づくられた円筒の中にある（田中 1997）．ツバキの花を訪れる蛾の大半は，開張 30 ～ 40 mm 程度の大きさのヤガ科の仲間で，それらは Fig. 1D に示すように，花弁と花糸の間の空間に静止したり，雄しべの筒の中に潜り込んだりして吸蜜する．体の大きなアケビコノハの場合，花弁と花糸の間の狭い空間の奥まで頭部を押し込むことができず，口吻を伸ばしても蜜が大量に付着している花糸の基部までは十分に届かない．そのため鋭く硬い口吻を活用し，花の裏側より萼や花弁を穿孔して，多くの蜜にありつく個体が現れたものと考察している．

なお，Figs. 1B, 1C を撮影した場所で日中，多くのツバキの花の萼の部分を調べてみたが，穿孔により変色を起こしている箇所を確認することはできなかった．

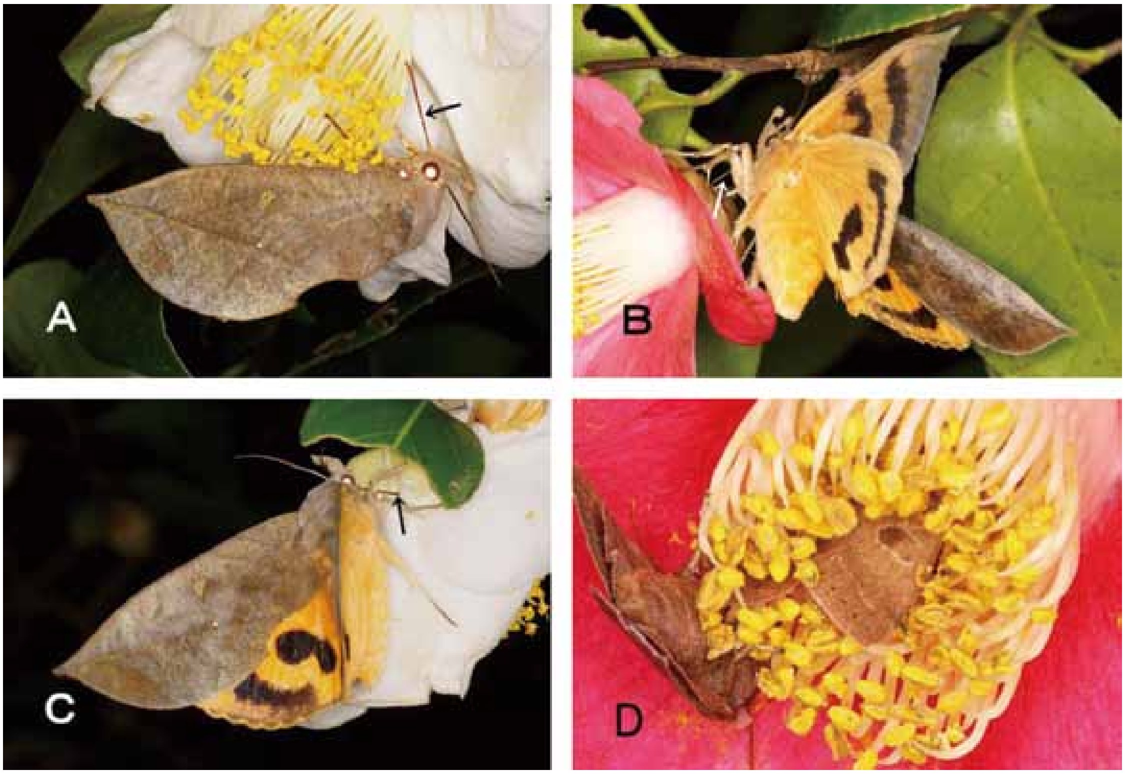

Fig. 1. Portraits of moths visiting flowers of *Camellia japonica*. ツバキを訪花中の蛾.

A. *Eudocima tyrannus* on *Camellia japonica*. Kamigo, Sakae-ku, Yokohama, Kanagawa Pref. (139°35′E 35°20′N) 2 Apr. 2010. ツバキの花で吸蜜するアケビコノハ. 神奈川県横浜市栄区上郷.

B. *Eudocima tyrannus* on *Camellia japonica* as nectar robber. Kamigo, Sakae-ku, Yokohama, Kanagawa Pref. (139°35′E 35°20′N). 2 Apr. 2010. ツバキの花の背面より盗蜜するアケビコノハ. 神奈川県横浜市栄区上郷.

C. *Eudocima tyrannus* on *Camellia japonica* as nectar robber. Kamigo, Sakae-ku, Yokohama, Kanagawa Pref. (139°35′E 35°20′N). 6 Apr. 2010. ツバキの花の背面より盗蜜するアケビコノハ. 神奈川県横浜市栄区上郷.

D. *Conistra nawae* (left) and *Orthosia fausta* (right), both smaller than *Eudocima tyrannus*, on *Camellia japonica*. Hongo, Sakae-ku, Yokohama, Kanagawa Pref. (139° 35′ E 35° 21′ N). 21 Feb. 2010. ツバキの花で吸蜜するナワキリガ（左）とクロテンキリガ（右）. 神奈川県横浜市栄区本郷.

参考文献

井上 寛, 杉 繁郎, 黒子 浩, 森内 茂, 川辺 湛 1982. 日本産蛾類大図鑑. 966 pp. 講談社, 東京.

森 介計, 川村 満, 川沢 哲夫 1989. 原色図鑑 夜蛾百種－吸蛾類を中心として. 236 pp. 全国農村教育協会, 東京.

田中 肇 1997. 花と昆虫がつくる自然. 197 pp. 保育社, 大阪.